

# 災害に強い街に向けて～消防の力 2020～

## 風水害対策について

Q：台風19号後の現状と今後について、消防局として対応したこと、検討していることを伺う。

A：令和元年10月の台風19号において、消防局では市災害対策本部の設置に準じ、警棒本部及び署隊本部を設置し、延べ1,122名で災害対応を行った。入電件数は合計857件、内台風に伴う災害出場は53件。指令センターにおいて人的被害の有無について十分に確認した上で慎重に判断しており、人命危険を最優先に活動した。

### 今後に向けた対応

①体制強化…これまで画一的に設置していた署隊本部を、災害出場の多い地域に対し参集増員しながら態勢を強化する。消防団についても、早期に消防団活動へ着手できるよう体制整備を行う。

②災害対応力の強化…市民から寄贈していただいた水陸両用バギーを令和元年11月1日から運用を開始し、ライフジャケットや胴長等の風水害資機材を増強すると共に、水難救助訓練、水陸両用バギーを活用した操作訓練、土砂埋没訓練等を日々行うことで、災害対応力の向上を図っている。また、消防団についても、救助用ボート及び水災用排水ポンプを新たに今年度配備する。



Q：各署の消防力について伺う。

A：さいたま市消防力整備計画に基づき、計画的に整備している。消防署所の配置については、各行政区に災害活動拠点となる消防署を1つずつ設置するほか、16の出張所を市内に配置している。また、各消防署には、消防車及び救急車をはじめ、指揮車、救助工作車、はしご車を配備。出張所含め1,169人の職員を配置し、日夜災害対応に当たることで、132万市民の安全・安心の確保に努めている。

Q：東京2020大会の延期の影響及び今後の人員装備を含めた計画や体制について伺う。

A：東京2020大会が延期になったことによる消防局の体制への影響はない。開催を前提に7割程度の計画作成済み。組織委員会に派遣している職員と打ち合わせを重ね消防力を万全にしたい。

また、7月に開署した岩槻消防署にも当初の予定通り10月には、消防隊1隊を増強し、来年の東京2020大会に備えたい。

## 決算特別委員会にて東徳力地区・金重地区の水害対策を言及！

### 東徳力地区、金重地区の水害対策について

Q：台風19号の被害状況を確認したことを受け、東徳力団地調節池の用地測量業務、金重地区的雨水浸水解析検討業務、排水路詳細設計業務についてどのような対策、検討がされたのか伺う。

A：東徳力団地では、地元説明会を実施。今後の調節池の整備事業の概要について説明をし、その後測量を実施した。東海団地においては、平成29年度に策定した対策方針に基づき、令和元年度金重地区雨水浸水解析対策業務を行い、浸水シミュレーションを実施。浸水対策として妥当性の確認を行った。

Q：東徳力団地は古隅田川に接続している。管理する県や隣市との協議について伺う。

A：古隅田川については、昨年度、春日部市域の古隅田橋上流において河川改修を90メートル実施したと聞いている。また、春日部市との協議については、中短期的な対策として、埼玉県及び春日部市と逆流防止の対策について協議を進めている。



## 死亡・相続ワンストップサービスへ！！

親族が亡くなると、その手続きは年金、保険、税など多岐に渡り、役所の様々な課を行ったり来たり。大変な経験をされた方も多くいらっしゃるかと思います。この、住民の死亡に伴う手続きの削減を目指し、これをワンストップ（1か所で業種や管轄の異なる複数のサービスの利用や手続きを行うこと）で担う「おくやみコーナー」を設置する自治体が増えています。政府は5月に自治体向けに支援システムの提供を開始し、既に24自治体が導入をしています。

さいたま市は、現在手続きをまとめたチラシで対応していますが、分かりづらい現状です。是非、早期にこの支援ナビを活用して「おくやみコーナー」を設置し、遺族の負担を軽減できるよう取り組んでもらいたいと思います。



## さいたま市からのおしらせ

### 令和2年度さいたま市インフルエンザ定期予防接種助成

実施期間：令和2年10月1日（木）～令和3年1月31日（日）まで  
対象者：接種日時点でさいたま市に住民登録があり、接種を希望する方で、次の①か②に該当する方

①65歳以上

②60歳以上 65歳未満で心臓、腎臓、  
もしくは呼吸器等の機能に、極度の障害を  
有する方

接種回数：1回

（市の助成は、実施期間内に1度限りです）

がんばろう さいたま！商品券が発行されます

10000円で12000円分のお買い物が出来ます。

販売や加盟店舗などの詳細はこちらへ

